

情報通信審議会 情報通信技術分科会 放送システム委員会
STL/TTL 作業班（第 4 回）議事概要（案）

1 日 時

平成 27 年 3 月 17 日（火） 13 時 30 分～14 時 20 分

2 場 所

総務省 11 階 第 3 特別会議室

3 議 題

- (1) 前回議事概要（案）の確認
- (2) VHF 帯デジタル STL/TTL の技術的条件について
- (3) その他

4 出席者（順不同、敬称略）

【構成員】甲藤主任（早稲田大学）、荻野（日本コミュニティ放送協会）、小竹（テレコムエンジニアリングセンター）、甲斐（NHK アイテック）、川島（エフエム東京）、平川（日本放送協会）、丸山（信越放送）、宮下（日立国際電気）

【事務局】久恒、豊重、向井（情報流通行政局放送技術課）

5 配付資料

資料 STL/TTL 作 4 - 1 STL/TTL 作業班（第 3 回）議事概要（案）

資料 STL/TTL 作 4 - 2 「山間部における超短波放送の難聴解消のための周波数有効利用技術に関する調査検討」報告概要

資料 STL/TTL 作 4 - 3 VHF 帯デジタル STL/TTL の技術的条件（案）

6 議事概要

議事次第に沿って検討を行った。議事概要は以下のとおり。

(1) 前回議事概要（案）の確認

資料 STL/TTL 作 4 - 1 について承認された。

(2) VHF 帯デジタル STL/TTL の技術的条件について

甲斐構成員より資料 STL/TTL 作 4 - 2、事務局より資料 STL/TTL 作 4 - 3 に基づき説明がなされ、主に以下の質疑が行われた。

- 資料 STL/TTL 作 4 - 2 について、1 P P S 信号の伝送レートはどのくらいか。（川島構成員）
- 20 k b p s の規格中に入っておりほぼそのとおりである。（宮下構成員）
- 伝搬距離 20 k m の見通し外区間は地形的にはどのようなところか。（平川構成員）
- 送受信点ともに標高約 1000 m 位の地点で、受信点手前に山があるような地形である。（甲斐構成員）
- 資料 STL/TTL 作 4 - 2 の 31 ページの送信所と受信所の図について、赤色の囲いと緑色の囲いの違いは何か。（甲藤主任）

- 地形の様子に伴う送信電力の違いを色分けして図示したものである。(甲斐構成員)
- 資料 STL/TTL 作4-3の1ページについて、中継方式で非再生中継方式は規定しないのか。(平川構成員)
- 非再生中継方式も取り入れたいと思う。(事務局)
- 12ページは既存のアナログ方式の無線設備との干渉検討の結果であるが、混信保護値の検討は行わないのか。また、既存のアナログ方式の無線設備からの妨害については検討しないのか。(平川構成員)
- ご指摘の件は検討が必要との認識で精査中である。基本的に既存のアナログSTL/TTLで使用している周波数や帯域幅を用いるものであり、新たな混信関係は発生しないと考えますが、精査しているところである。(事務局)
- 10ページの値の考え方は、11ページの式の m 、 n が2の場合ということによいか。(甲藤主任)
- そのとおりである。報告書(案)には、その考え方を記載したい。(事務局)
- 事務局からの補足だが、所要フェージングマージンの考え方については、次回までに整理することとし、現在精査中である。(事務局)

(3) その他

事務局より、第5回作業班を4月2日(木)13時30分より開催したい旨提案があり、主任・構成員から了解が得られた。

以上